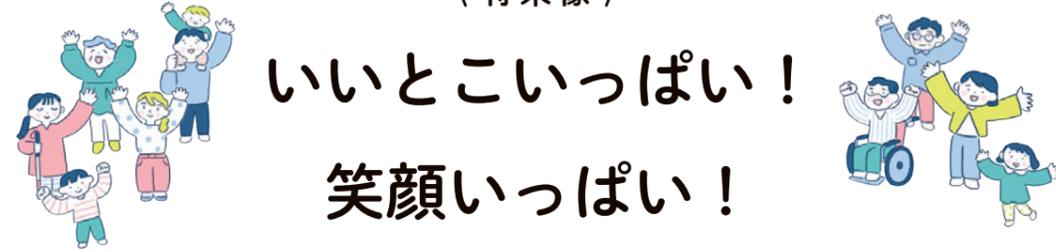


基本構想

2021年度～2030年度

1 播磨町のめざす将来像(将来のまちの姿)

\ 将来像 /



いいとこいっぱい！
笑顔いっぱい！

みんなでつくるふるさと はりま

将来像は、播磨町の10年後がこんなふうになりたいと願うまちの姿です。
将来像のイメージは次のとおりです。

いつでも安心して暮らせるまち

地域で支え合うことができるまちで、子どもから高齢者まで安心して健やかに暮らせるまちになっています。



日々の暮らしを快適で便利に過ごすことができるまち

暮らしを支える都市基盤が便利で利用しやすくなり、活力ある産業と身近な自然を感じながら、笑顔で快適に暮らしています。



心安らぐふるさととして、いつまでも愛し、誇りに思えるまち

播磨町に関わるすべての人に「ふるさと」として愛されています。恵まれた風土と歴史に愛情と誇りを持ち、一人ひとりが自分らしくいきいきと過ごしています。

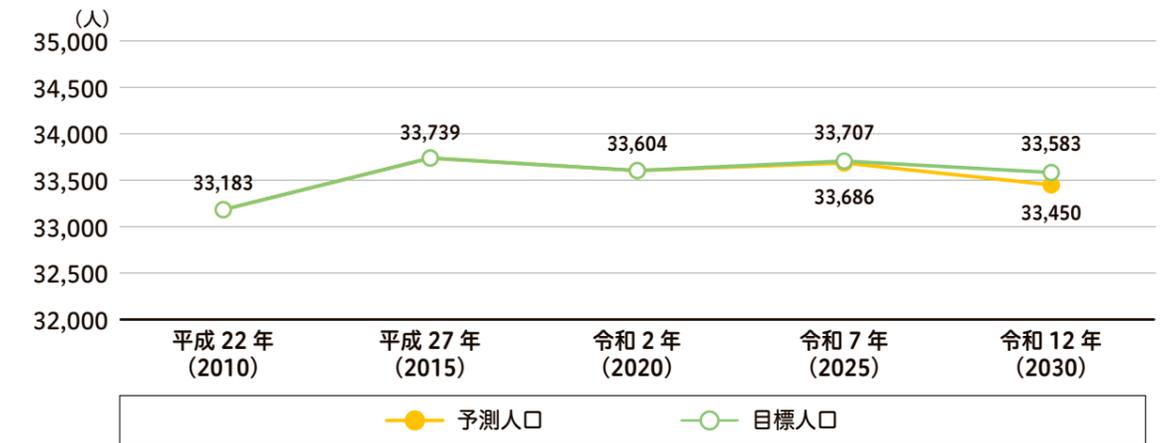


2 将来人口

全国的な少子高齢化や人口減少を背景に、本町の将来人口についても、令和2年(2020年)の国勢調査結果までを踏まえた国立社会保障・人口問題研究所の推計や令和2年(2020年)以降の本町の人口動向に基づき見通すと、今後の人口減少対策等を想定しない場合、令和12年(2030年)には33,450人程度にまで減少することが想定されます(予測人口)。

こうした状況の中、本町では、まちの魅力や定住環境の向上等を図る人口減少対策に取り組み、目標人口を令和12年(2030年)には約34,000人規模を維持することをめざすとともに、様々な取組を通じて、少子高齢化についても改善を図っていきます。

■播磨町の将来人口



(単位:人)

	国調人口(実績値)			将来人口	
	平成22年(2010)	平成27年(2015)	令和2年(2020)	令和7年(2025)	令和12年(2030)
予測人口	33,183	33,739	33,604	33,686	33,450
0~14歳	4,764	4,933	4,788	4,610	4,244
15~64歳	21,453	20,341	19,549	19,690	19,901
65歳以上	6,966	8,465	9,267	9,385	9,305
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0~14歳	14.4%	14.6%	14.2%	13.7%	12.7%
15~64歳	64.7%	60.3%	58.2%	58.5%	59.5%
65歳以上	21.0%	25.1%	27.6%	27.9%	27.8%
目標人口	33,183	33,739	33,604	33,707	33,583
0~14歳	4,764	4,933	4,788	4,618	4,278
15~64歳	21,453	20,341	19,549	19,718	19,997
65歳以上	6,966	8,465	9,267	9,370	9,308
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0~14歳	14.4%	14.6%	14.2%	13.7%	12.7%
15~64歳	64.7%	60.3%	58.2%	58.5%	59.5%
65歳以上	21.0%	25.1%	27.6%	27.8%	27.7%

3 土地利用の構想

播磨町は、町域がコンパクトで、なおかつ平坦な地形です。土地利用としては、埋立地及び臨海部に各種工場等が立地した産業ゾーンを擁し、内陸部は2つの鉄道駅を中心に交通至便であるため、昭和40年(1965年)代より京阪神のベッドタウンとして人口が急増する中、大部分を中低層住宅ゾーンとして利用を進めてきました。

町域がコンパクトで、どの居住地でも概ね徒歩圏内における生活利便施設は充足していることより、現在の居住系市街地及び工業系市街地の維持・保全を基本にしつつ、住民の便利で快適な生活を支える拠点の整備をはじめ、地域特性を活かした計画的で秩序ある土地利用の推進、人々の円滑な移動や物流を支える交通連携軸及び回遊軸の適切な配置に努めます。



住宅ゾーン

低層・一般・沿岸周辺の各住宅ゾーンの特性を踏まえ、緑豊かで日照・通風に優れた環境や利便性、安全性を活かしながら、誰もが安心して快適に暮らせる良好な住宅地の形成を図ります。

くらしと交流のゾーン

山陽電鉄播磨町駅や役場周辺をくらしと交流のゾーンとし、行政・文化・福祉など多様な機能の集積により、住民の生活を支え、世代を超えた交流を育む土地利用の形成を図ります。

にぎわいとくらしのゾーン

JR土山駅周辺をにぎわいとくらしのゾーンとし、近隣市町からも人が集う商業・公益機能と利便性の高い住環境が共存する、複合的な都市機能を備えた土地利用の形成を図ります。

沿道サービスゾーン

国道250号や浜幹線などの主要道路沿線を沿道サービスゾーンとし、周辺環境との調和を図りながら、サービス機能の立地を促進する土地利用の形成を進めます。

産業ゾーン

新島・東新島などの工業地を産業ゾーンと位置づけ、東播磨港を活かした物流拠点としての機能と脱炭素化の取組を両立させ、雇用と産業を支える活力ある工業地の形成を図ります。

レクリエーションゾーン

大中遺跡や大規模公園が立地するエリアをレクリエーションゾーンと位置づけ、緑豊かな自然環境と歴史資源の魅力を活かし、播磨町らしさを感じられる空間の形成を図ります。

土地利用検討ゾーン

北古田・東野添周辺の市街化調整区域を土地利用検討ゾーンと位置づけ、隣接市との調整や道路整備計画、周辺の宅地化の状況を踏まえ、地区特性に応じた土地利用のあり方を検討します。

第2章 まちづくりの体系

将来像の実現に向けて、以下の体系に示す3つの基本政策と6つの方向性、そしてそれらにひもづく取組(まちづくり分野)を基本としたまちづくりの推進により、将来像の実現をめざします。

